

1 月定例記者会見 会議録概要

2021（令和3）年1月8日（金）午前10時30分～
市役所本庁4階 庁議室

1. 市長からの発表

あけましておめでとうございます。

本年もよろしく願いいたします。

この年末は、伊賀地域において豚熱が発生し、養豚場の防疫措置のため、年末年始の雪が降る中、県や自衛隊が出動し、市職員も支援隊として出動しました。作業も順調に進み1月7日、県が防疫措置の完了を発表したところです。

また、豚熱だけではなく、昨年は新型コロナウイルス感染症が発症し、年末年始も挟んで第3波ということで、私たちは自らを守る努力をしっかりとしていかなければならないと思います。

さて、今年の一文字として「克」を書きました。これは「がんばって耐え抜く」「やりぬく」「力を尽くして勝ち抜く」という意味があります。

コロナに打ち克つ、或いは様々な困難に打ち克つ、そして克明にということですから、一人も取り残さず、新しい価値観でコロナ禍の中をスタートせざるを得なくなったため、しっかりとそうしたことを先進的に取り組んでいきたいと思っております。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、昨年12月から行っている「伊賀市忍にん赤ちゃん子育て応援特別給付金事業」の進捗状況ですが、年内に給付ができるよう昨年12月1日の議会本会議終了後、対象者312件に申請書を送付しました。送付の対象者からは231件の申請があり、12月18日と25日に給付しました。給付率は74%になります。

また、送付後に出生届等を提出された方については、窓口で申請を受付け、こちらを含めると年内給付は254件になります。

現在未申請の方に対して、再度、申請案内を今日郵送いたしましたので、お早めにご提出ください。

また、進捗状況等については、手元の資料をご確認ください。

(1)「デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀」を開設します

伊賀は、かつて藤堂高虎に「秘蔵の国」と評され、県内の市町で最多の指定文化財があるなど、歴史文化の宝庫です。

これまで多くの貴重な資料等は、各施設に行かなければ見られませんでした。伊賀市や伊賀上野観光協会等が所蔵する歴史資料等をデジタルアーカイブ化し、博物館「デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀」がインターネット上に公開され、伊賀市ホームページからも見ていただくことができるようになりました。

全国の方が、松尾芭蕉、伊賀流忍者、藤堂藩関係の資料や文化財等、伊賀の歴史や文化を身近に触れることができ、多くの方に資料を見ていただくことができます。また、市民の皆さんにも伊賀の歴史文化について再認識していただく機会になればと思います。

この事業は、2ヵ年で歴史資料等をデジタルアーカイブ化しようとするものです。

「デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀」には、5つのテーマがあります。10月から「芭蕉と俳諧の世界」を先行公開しておりましたが、この度、今年度公開予定である3つのテーマが揃いましたので、1月19日 午前0時から公開します。

それぞれの資料は、墨の濃淡や紙の継ぎ目までもわかる高精細な画像で見ることができます。読みにくい崩し字も現在の文字が表示され簡単に解読することができ、実物に近い感覚で見ることができます。

また、関連事業として、2月27日にはハイトピア伊賀にて「伊賀の魅力 再発見」と題した公開記念講演会を開催し、デジタルミュージアムの魅力を発信したいと考えています。

(2) 「田舎暮らしの本」住みたい田舎ベストランキングで3年連続県内1位を達成

1月4日に株式会社 宝島社より発行されました『田舎暮らしの本』のなかで、伊賀市が「全国12エリア別 住みたい田舎ベストランキング」東海エリア総合部門で6位に選ばれ、3年連続で県内1位を達成しました。

なお、人口10万人未満の自治体「小さな市部門」の総合部門では、全国で昨年37位から35位となりました。あわせて、「シニア世代が住みたい田舎部門」では、昨年37位から16位となり、「子育て世代が住みたい田舎部門」では、昨年36位から33位に選ばれました。

全272項目のアンケートのなかで、自然環境や文化などに加え、移住施策に力を入れていることや、子育て、医療、就労、空き家対策など、総合的に各分野の取組が評価された結果であると聞いています。

伊賀市は、平成28年度に県内初となる「移住・交流」の専門部署を設置しました。移住コンシェルジュの相談窓口開設から令和2年12月末までに、延べ3,700件の相談を受け、153世帯291人が移住されました。

また、移住された方々は、飲食店を起業されたり、城下町ホテルの設計を担当されたり、伝統産業の担い手になられたりと、地域に溶け込み、様々な分野で活躍されています。まさしく、伊賀市の活性化のために、移住・交流施策に取り組んできた成果であると手応えを感じています。

コロナ禍のなか、これまでも増して地方移住への関心は高まっています。また、人口減少が加速度を増すなか、まちの活力を維持し、選ばれる存在であり続けるため、今後さらに「来たい・住みたい・住み続けたい“伊賀市”」の実現に向けて、取組を進めてまいりたいと考えています。

(3) 2020（令和2）年度 伊賀市ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）の寄附状況について

伊賀市では、ふるさと納税制度を市のファンづくりの一環として、「伊賀市ふるさと応援寄附金」を広く募集するとともに、返礼品を通じて伊賀の特産品のPR等に努めているところです。

昨年 12 月の定例記者会見において、11 月末時点ですでに昨年度（令和元年度）の合計を上回る寄附をいただいていることを報告させていただいたところですが、毎年 12 月は年間の寄附のおよそ半分が集中することから、改めてその結果についてお知らせし寄附いただいた皆さまに感謝申し上げたいと思います。

令和 2 年 12 月 31 日時点の伊賀市ふるさと応援寄附金は、件数が延べ 1 万 2 千 5 百 5 8 件、金額は 5 億 7 千 1 1 9 万 4 千 8 百円となり、12 月 31 日時点で昨年度の約 2.57 倍の寄附をいただいております。12 月のひと月だけをみましても 3 億円を超える寄附をいただいております、このまま年度末まで推移しますと、合計で 6 億円に達するのではないかと期待しているところです。

寄附いただいた方々への伊賀市からのお礼の品は、伊賀焼の土鍋や伊賀牛、あとドライブレコーダーなどが人気です。

大きく伸びた要因は、コロナ禍による外出自粛の長期化で、全国的にふるさと納税が増えているという状況ですが、伊賀市では協力事業者のおかげをもちまして返礼品の種類が充実し、さらに伊賀ブランドをはじめ、本市が誇る自慢の製品の品質の高さが全国に認められている証拠だと思っております。

皆さんからの寄附金は、大切に活用させていただき、引き続き伊賀市の魅力を全国に発信するため、取り組んでいきますので、今後とも応援よろしく願いいたします。

主な質疑応答の概要

【伊賀地域で発生した豚熱の防疫措置について】

記者：豚熱に関して、年末年始は皆さん大変な思いをされたと思いますが率直な感想をお願いします。

市長：皆さんよく頑張ってくださいましたことに感謝します。そして、実際にその渦中であって思ったことは、法律が昭和 26 年にできた法律（家畜伝染病予防法）なので、今日に合わない対応が盛り込まれていると思えました。既にワクチンを接種している豚を全頭殺処分するということです。豚熱が発症して子豚 20 頭死んだことが発見されましたが、ワクチンを打ってある豚も全頭殺処分というのは、何のためにワクチン打ったのかということ。これは国の豚熱防疫に対する考え方をもう一度少し見直さなければいけないところもあるのではないかと実感したのが本音のところ。しかし、今回はたくさんの方に頑張ってくださいましたということは感謝しなければいけないと思っています。

記者：国に対して法律改正の要望をされますか。

市長：豚熱の防疫措置は、県の要請で市はサポートをする立場のためメインではありませんが、課題をまとめ機会があればしかるべきところへ提出もできたらと思います。

【『デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀』を開設します』について】

記 者：開設をして反響などありますか。

上野図書館：これまでは、各施設で少数の品を見ていただくことしかできなかったものが、簡単に見ることができるようになり、ミュージアムの見方についてお問合せをいただきます。専門家でないと分からなかった文字が、私たちでも読めるということで非常に好評をいただいております。

記 者：どのぐらいの公開を見込んでいますか。

上野図書館：今年度は、芭蕉・忍者・藤堂藩資料の117点です。来年度については、今後精査しますが、文化財の仏像などを公開する予定です。

【2020（令和2）年度 伊賀市ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）の寄附状況について】

記 者：新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛の長期化ということと、ふるさと納税が増えていることが今ひとつ結び付かないのですが。

市 長：多分、いわゆる巣ごもり需要ということで、伊賀市ではそうした需要に応えるような、例えばお肉などが大変信頼と好評を得たのかと思います。また、ドライブレコーダーは、これまで返礼品になかったものですが、伊賀市内で生産され、その品質を認めていただいたということかと思います。

2. 1月の主な行事予定

（1）人権パネル展の開催

日 時 各会場により異なります（詳細は別紙をご覧ください）

場 所 本庁・市民館等

内 容 「インターネットと人権Ⅱ」、「部落差別解消推進法」、「知っていますか？女性差別撤廃条約」、「外国人の人権」

担 当 人権生活環境部 人権政策課（電話 0595-26-9683）

（2）伊賀市本庁舎アート情報（1月展示）について

日 時 1月4日（月）～1月28日（木）※華道は1/29まで
午前8時30分～午後5時15分（市役所の開庁時間に準ずる）

場 所 伊賀市本庁舎（4階）市民ミニギャラリー
（1階）玄関横

内 容 （4階）絵 画：荒木 寛さん

（1階）絵 画：中野 英一さん

オブジェ：大平 和正さん

華 道：伊賀華道協会

担 当 企画振興部 文化交流課（電話 0595-22-9621）

3. その他

主な質疑応答の概要

【コロナ禍で開催する成人式について】

- 記者：新型コロナウイルス感染症に関して、昨日1都3県の緊急事態宣言が出されました。さらに関西の大阪周辺の自治体からも申請するという雰囲気は昨日、今日と出ております。そこで市の感染対策として「感染拡大防止強化期間」（12月16日～1月8日）を設定されてから今日までの期限ですが、第3波がますます激しくなっております。さらに成人式を目前にして、緊急事態が出ている首都圏や関西圏から帰ってきて伊賀で集まりますが、市として何か新しい対策のようなものをお考えでしたら教えてください。
- 市長：今日までが強化期間です。幸い皆さんにご協力をいただき、市内では0件という日がかかり続けました。その後も1人ということもありましたが、周辺地域と比べると、おかげさまでそうした状況にとどまっています。関東、関西ともに大変な状況になってきている中では、今後取りうる方策を検討したいと思っております。いずれにしても「かからない努力」ということが必要であり、皆さんしっかりとこの緊迫した情勢の中で意識を高めるよう訴えるということなのです。
- 記者：市HP「～伊賀市成人式に出席される方へ～」の案内では、「・・・国の緊急事態宣言を受けて、該当地域にお住いの方の出席は、自粛も含めて特に慎重な判断をされますようお願いいたします。」と掲載されていますが、できればそれぞれの判断でということですか。
- 市長：有り体に言えば、自重していただいたらどうかという思いです。欠席された方には、私どものメッセージをYouTube 忍者チャンネルで動画配信をしますのでご覧いただきたいと思います。
- 毎日：自治体によっては、着物のキャンセル料などを自治体が請け負うという話もありますがそういうお考えはありますか。
- 市長：考えておりません。出席するのは、ご自分の判断と申し上げています。我々としては体温チェックや感染防止の態勢をし、市内の方でも体調不良の方はご遠慮いただきます。要は、かからない、拡げないということが課題ですから。